

身近な存在である鏡川の魅力を再発見！

「高知・鏡川 RYOMA 流域学校」第2回講座・現地フィールドワーク



12月17日(土)18日(日)の2日間、高知市・鏡川流域にて「高知・鏡川 RYOMA 流域学校」第2回講座の現地フィールドワークを実施しました。

鏡川の源流点のひとつである菖蒲洞をはじめ、宗安寺きのこセンターや鏡文化ステーションRIO、オーベルジュ土佐山、久重地区など、高知市内に住んでいてもなかなか行く機会がない場所を受講生8名が訪れ、まさに鏡川流域の魅力を五感で感じ、再発見するプログラムとなりました。ツアープログラムは、第1期生で観光コーディネーターの岡林雅士さん

によるコーディネート。今回は第1期生が盛り上げてくれているのが特長です。



2日間の現地フィールドワークのスタートは、馴染み深い鏡川みどりの広場から。第1期生であり今回ガイドを務める大下宗亮さんから鏡川の水質や生態系についてレクチャーを受けた後、電動クロスバイクに乗って上流域を目指します。

最初の目的地は鏡川漁業協同組合。戸田二郎専務から流域保全に関する活動紹介だけでなく、鮎の稚魚を実際に見せていただきました。

鏡川に沿って宗安寺地区に到着。宗安寺きのこセンター代表の岡和子さんや多国籍料理店SO-ANの店主・公文潔さんに話を伺いました。宗安寺きのこセンターでは、栽培工場を見学した後に採れたてのきのこを実食。しいたけのたたきや炭火焼き、なめこ汁、生きくらげの酢の物など、小雨で寒い中、スタッフの皆さんのおもてなしに心身ともに暖まったことでしょう。





宗安寺地区を抜けるとすっかり中山間地域。景色をゆっくり眺めながら自転車を走らせます。

ランチは鏡文化ステーション RIO のレストランで日替わり定食とツガニ汁。ツガニ汁は食べたことがないという受講生も多く、貴重な体験となりました。食後は支流の的漕川との合流地点に下りて河原を散策。鏡むらの店で特産品を購入するなど地域を知る機会になりました。

午後は桑尾沈下橋近くの古民家を訪問。オーナーは第1期生の林明保さん。姉妹講座エディット KAGAMIGAWA 修了生によるヨガや和蠟燭のイベントなど、新しい取り組みが生まれている場所です。当日は、庭で焚き火を囲みながら林さんの話を伺い、鏡川流域についてそれぞれが思いを馳せる時間に。オーベルジュ土佐山で「清流鏡川棚田キャンドル」を見学して初日は終了しました。



2日目は上流域から下流域へ。まず源流点のひとつである菖蒲洞を訪れました。私設公民館・和庵にて『ほっとこうち』副編集長の今橋大輝さんセレクトのコーヒーでほっと一息。当日は白山神社の巨大門松づくりの様子を見ることができました。次の場所へ出発する頃には完成しており、地元の方々の手際のよさに、受講生はただただ驚くばかりでした。

続いて夢産地とさやま開発公社を訪れ、大崎裕一理事から地元の有機農業や林業の現状を伺うことができました。土佐山夢産地パーク交流館かわせみで開催されていた土佐山アカデミー主催のクリスマスワッグづくりを見学。地域に暮らす方の日常を垣間見ることができました。

ランチは久礼野茶房にて、第1期生であり久重地区で活動する橋詰辰男さんの話を伺いながら。





高知市役所に移動して、土佐山アカデミー事務局長の吉富慎作さんによる活動紹介。広告会社出身らしい地域活動のアイデアから移住者ならではの失敗談など、地域と関わる楽しさや難しさを学ぶことができました。2日間の締めくくりとして、最後は現地フィールドワークを振り返るワークショップを実施。チームごとにテーマを設定し、自分らしい鏡川流域との関わり方を考えました。

初日は小雨、2日目は初雪と天気には恵まれませんでしたが、鏡川流域ならではのアクティビティや鏡川流域で活動する事業者の方々はもちろん、受講生同士で交流する時間もあり、「上流域の現状が知れてよかった」「知らなかったことも多く勉強になった」「今後につながる発見があった」「個人ではできない体験ができた」などの意見があり、参加者全員の満足度が高い充実の2日間となりました。



第3回は年明け1月14日（土）、土佐山夢産地パーク交流館かわせみにて開催。いよいよ「まちのコイン」のスポットとして受講生自身が鏡川流域と関わるための「体験」を考えていきます。